

「歴史と政治経済学の視点からみる中国の「農嫁女問題」」

日 時： 2023年7月27日(木) 18:00~19:30

講 師： 李亜姣氏(日本学術振興会外国人特別研究員(東京大学社会科学研究所))

会 場： 池袋キャンパス4号館別棟4151教室

第89回ジェンダーセッションは、日本学術振興会外国人特別研究員(東京大学)の李亜姣(リ・アコウ)氏をお招きしました。氏が研究されている中国農村女性の農地をめぐる権利の侵害「農嫁女(のうかじょ)問題」とその抵抗運動について、ご著書『現代中国の高度成長とジェンダー：農嫁女問題の分析を中心に』(東方書店)の内容をもとにお話いただきました。

日本ではあまり知られていない「農嫁女問題」は、中国においては婦女連会や民間の女性法律組織が長期にわたって取り組んできた重要な課題であるといえます。氏の研究のなかでの「農嫁女」とは、農地の補償金や権利の分配から排除された女性たちであり、具体的には、結婚後に村外の男性と出身村で生活する女性とその家族、都市戸籍の男性と結婚した女性とその子供、離婚して生家に戻った女性とその子供、さらにはまもなく結婚して村外へ移住すると予測される未婚女性等を指します。なぜ、彼女たちは権利を失っていったのか、特になぜそれが高度成長期において起きたかについて氏は、当初は女性にも1人分の土地所有権が与えられていた中国共産党の土地改革からの歴史、そしてその後の制度変更と土地への固定資産への投資の過熱化・急激な都市化等の政治経済の2つの側面から分析し、その発生原因を説明されました。

その上で氏は、マリア・ミースの主婦化論を援用した「農嫁女化論」を展開し、父系中心の家族倫理が新たなかたちで改革開放以降の土地制度改革において明文化・制度化されたことを「農嫁女化」と名付け、資本の<暴力-権力>的性格と、家父長制の構造化への力能が結合したと言及されました。つまりは、氏が繰り返し言及した中国の諺「嫁に出した娘はこぼした水も同然」が体现する、既婚の娘を余所者と見なす父系中心の家族像が村の村既民約と結びつき、財産分配におけるジェンダー差別が家庭から村までに拡大したといえます。

氏はこうした女性たちを巡る「農嫁女問題」を、父系中心の家族倫理を制度化・明文化した村落・地方の規約によって、女性が土地を奪われ、土地の増殖価値等の再配分から排除される、女性の「生存維持活動を脅かす問題」と喝破し、さらに中国の市場化転換期における資本主義家父長制の現れのひとつであり、現代中国における進行中の本源的蓄積の重要な側面であると結論づけられました。

あわせて、実地調査をもとにした農嫁女の抵抗運動についても紹介いただき、その特徴として、女性の利益代表や行動者エリートはほとんど存在せず、性の生家男系相続と農村宗族社会が結びつき、女性が異議を唱えることは容易でない状況を挙げられました。

質疑応答では中国の戸籍制度や一人っ子政策と絡んだ疑問点など、日中交えた活発な質問が投げかけられ、参加者の関心の高さが窺われました。李氏は、ひとつひとつに丁寧にお答えくださいました。

中国の「国家資本主義」の下で起きている、具体的なジェンダーの課題について、詳細に報告・講演いただいた李氏に心から感謝申し上げます。

(立教大学ジェンダーフォーラム事務局 佐野 敦子)

立教大学ジェンダーフォーラム 第89回ジェンダーセッション

**歴史と政治経済学の視点からみる
中国の「農嫁女問題」**

1920年代から1950年代に中国共産党によって土地法が制定され、中国の農村女性は土地所有権を獲得した。しかし、その後の中国の高度成長の過程で、農村の女性たちは土地の権利を次第に喪失していき、権利の侵害現象は「農嫁女問題」と名付けられるようになった。

中国農村の農地をめぐる権利の侵害「農嫁女問題」はなぜ高度成長期に発生したのか。ジェンダー秩序の再編は資本主義の中でどんな役割を果たしたのか。本書は「農嫁女問題」の発生原因を歴史、政治経済の2つの側面から分析するとともに、農嫁女の抵抗運動についても実地調査をもとに紹介する。

日 時 2023年7月27日(木) 18:00~19:30

場 所 池袋キャンパス4号館別棟4151教室

講師 李 亜姣(リ・アコウ)氏

お茶の水女子大学で学んで「歴史・政治経済学」を専攻し、結婚後、国際ジェンダーフォーラムなど本格的な活動に参画。中国農村の「農嫁女問題」を研究し、2019年に『現代中国の高度成長とジェンダー：農嫁女問題の分析を中心に』(東方書店)を出版した。本書は「農嫁女問題」の発生原因を歴史、政治経済の2つの側面から分析するとともに、農嫁女の抵抗運動についても実地調査をもとに紹介する。

主催・お問い合わせ 立教大学ジェンダーフォーラム
TEL 03-5965-1111 FAX 03-5965-1112
E-MAIL gend@riak.ac.jp
URL www.gend.ac.jp